# 三村先生との思い出

大野内　　愛
（広島文教大学）

**Memories with Prof. Mayumi Mimura**

Ai ONOUCHI

三村先生，ご退職おめでとうございます。

三村先生が広島大学へ来られたのは，私たちが学部 3 年生のとき，ちょうど卒業論文作成のためにテーマを考えていた時期でした。研究初心者の私たちにはわからないことだらけでしたので，私たちの中では「困ったことがあれば三村先生のところへ」とみんなが三村先生の研究室へ足を運びました。研究室は，当時は 3 階の一番奥のお部屋だったと記憶しております。みんなが 3 階の廊下をパタパタと歩いて先生の研究室に助けを求めにいきました。私の友人は「廊下を歩くスリッパの足音であなたが来たと分かった」と三村先生に言われて，愛を感じ，とても嬉しかったと言っておりました。当時三村先生は，研究のことはもちろん，私生活の悩みや，将来のこと，女性としての生き方など，本当に私たちに寄り添って話を聞いてくださり，さらに的確なアドバイスをくださいました。今思えば，研究・教育・社会貢献活動などに加え，ハープの演奏など精力的に活動されていた中で，私たちが気まぐれに研究室を尋ねても，嫌な顔一つせず親身になって対応してくださったこと，本当に頭が下がります。三村先生の大切なお時間を私たちにたくさん割いてくださったのだと，感謝の気持ちでいっぱいです。

私は大学院では声楽を中心に学んでおりましたが，三村先生は音楽教育学のゼミにも温かく迎え入れてくださり，学会にも一緒に参加させていただきました。学会参加に際しては，みんなで飛行機や列車を予約したり，車に乗り合わせていく計画を立てたり，ホテルや，美味しそうな食事処の予約，学会が終わったあとその土地を観光する計画など，ワイワイと楽しんだ記憶があります。道中，三村先生から，学会発表の内容や質問への受け答えなどについてコメントをいただいたり，これからの研究の方向性をアドバイスいただいたりしました。研究に対して前向きになれるとても充実した時間であったと思います。

研究の方向性や私の将来について，三村先生にはたくさんのアドバイスをいただきました。その中でも，「実技も論文も！」とお尻を叩いてくださったことが今の私に大きく影響していると思います。実技をしているだけでは見えない世界，逆に論文を書いているだけでは見えない世界を見させていただいたように感じております。これからも，音楽の本質に迫る音楽教育学の研究をさらに進めていきたいです。

最後に，今年はコロナウイルスによる肺炎が大流行し，2 月から各種イベントが中止・延期となりました。その影響を受け，三村先生を囲む祝賀会も中止となり，発起人の 1 人として，非常に残念に思っております。講座の先生方を除くこの度の発起人（福島さやか，上野智子，峯恭子，大野内愛，別府祐子，長澤希，藤尾かの子，能見義史，平山裕基）は，それぞれ三村先生のご指導を受け，各地で教育・研究職として勤務しておりますが，みんな祝賀会を非常に楽しみにしており，数度の打ち合わせと称した飲み会を重ねておりました。その中でも三村先生の思い出を持ち寄り，懐かしく楽しい時間を過ごさせていただきました。本来なら祝賀会で 100 名弱の卒業生や関係者が集い，三村先生の思い出で大同窓会のように大盛り上がりになる予定でした。残念ながら会は中止となりましたが，私たちは今後もあらゆる場所でそれぞれつながっていきます。先生にいただいたご縁を大切にして参ります。本当にありがとうございました。